

この事例の行為について

- ・代わりの方法を考えずに高齢者を乱暴に扱う行為は、身体に外傷が生じまたは生じるおそれがあると考えられることから、**身体的虐待と判断**されます。
- ・また、「痛い」と訴えているにも関わらず、無視して一方的な介護を続けることは、高齢者を否定する態度ともとらえられるため、**心理的虐待が考えられます**。

防止のためのポイント

<個人でできること>

●自分のケアを振り返ってみましょう

- ◆アセスメントを丁寧に行う（根拠あるケアを提供するために）

- ・立ち上げられない理由について、ADLの状況や痛みの程度、食事の摂取状況、疲労感等、多方面から、

詳細にアセスメントする

（言葉だけではなく、表情や反応等からもくみ取ろうとする姿勢をもつ）

- ◆一人で介助できなかった場合の**代替方法を検討**しておく
- ◆自分本位（“非”高齢者本位）になっていないか考える
 - ・職員側の都合が優先されていないか
 - ・一斉介護・流れ作業を見直し、個別ケアを実施しているか
- ◆悩んだときは一人で判断せず、周囲に相談する

●気になる言動を見かけた際には同僚や上司に相談・報告しましょう

<チームでできること>

●高齢者の情報を共有し、対策を統一しましょう

- ・情報共有・意見交換の機会を設ける ⇒ケアプランの見直し
- ・高齢者の心情までチーム全体で検討・推察する
- ・例えば、立ち上げられない理由を考える上で必要な身体的情報や心理的情報、立たせるための技術的情報等、必要な情報を多職種で共有し、対策を検討する

●相談しやすい雰囲気、風通しの良いチームを作りましょう

- ・虐待につながる可能性のある気になる言動を放置しない職員間の関係を作る
 - ⇒日頃から、お互い「声を掛け合う」、対応に困ったら相談する等
- ・良好なチームワークを保つため、なんでも相談できる安心感（心理的安全性）を確保する

<組織でできること>

●素早く対応できる体制を作りましょう

- ・不適切なケアや高齢者虐待に気付くための取り組みを考える
- ・情報が共有される仕組みを構築する
- ・対策を検討する組織（虐待防止委員会等）、役割を明確にする

●虐待防止のために普段から取り組みましょう

- ・高齢者虐待防止に関する学習の機会を定期的に設ける
- ・他にも、ケア技術や認知症ケア等のケアの質の向上のための学習機会、メンタルヘルスの視点での職員面談の実施等、組織運営・業務管理に係る部分の取組みも重要
- ・虐待防止委員会等、管理者を含めた検討の場で、組織的取組みについて定期的に検討できる仕組みを設ける
- ・高齢者の理解とそれに基づいた適切なケアの提供や環境について学習することで高齢者虐待が起きない環境を作る